

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取組状況について

①介護保険事業の状況

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況 1) 高齢者数等の状況

- 令和3年度は、令和2年度と比較し、人口は1,314人減少し、333,843人であった。
そのうち、高齢者数は99,124人であり、その約51%が75歳以上であった。
- 高齢化率は、0.4ポイント増の29.7%となった

	H23 (2011)	H26 (2014)	H29 (2017)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)
総人口	339,176	340,012	338,001	336,284	335,157	333,843	322,740	313,137	301,863	289,150	275,661
15歳未満	62,287	44,162	42,032	40,714	40,108	39,463	35,417	32,779	30,488	28,869	27,197
15～39歳	80,428	92,166	88,383	86,540	85,426	84,349	74,522	70,488	66,414	61,044	56,122
40～64歳	116,208	114,764	112,592	111,749	111,276	110,907	107,344	102,010	94,552	85,006	78,847
65歳以上	80,253	88,920	94,994	97,281	98,347	99,124	105,457	107,860	110,409	114,231	113,495
65～74歳	39,715	45,798	47,563	47,193	47,719	48,100	41,967	39,413	41,711	45,747	43,995
75歳以上	40,538	43,122	47,431	50,088	50,628	51,024	63,490	68,447	68,698	68,484	69,500
人口に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
15歳未満	18.4%	13.0%	12.4%	12.1%	12.0%	11.8%	11.0%	10.5%	10.1%	10.0%	9.9%
15～39歳	23.7%	27.1%	26.1%	25.7%	25.5%	25.3%	23.1%	22.5%	22.0%	21.1%	20.4%
40～64歳	34.3%	33.8%	33.3%	33.2%	33.2%	33.2%	33.3%	32.6%	31.3%	29.4%	28.6%
65～74歳	11.7%	13.5%	14.1%	14.0%	14.2%	14.4%	13.0%	12.6%	13.8%	15.8%	16.0%
75歳以上	12.0%	12.7%	14.0%	14.9%	15.1%	15.3%	19.7%	21.9%	22.8%	23.7%	25.2%
高齢化率	23.7%	26.2%	28.1%	28.9%	29.3%	29.7%	32.7%	34.4%	36.6%	39.5%	41.2%

※H23～R3は実績値。R7以降は推計値。(各年9月末時点)

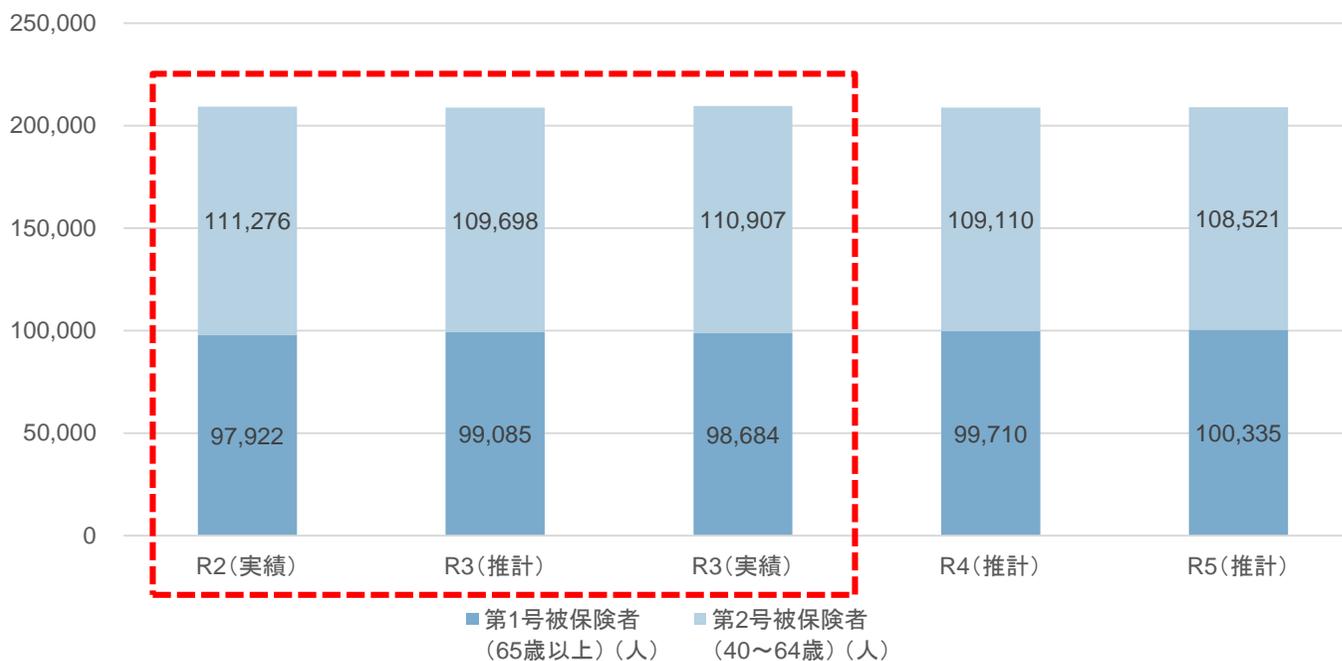
(出典)実績値:高齢者人口調べ 推計値:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況 2) 被保険者の状況

■ 被保険者の状況(各年9月末時点)

- 令和3年度の第1号被保険者(65歳以上)の実績値は、令和2年度と比較すると762人の増加となっている。
- 令和3年度の推計値と実績値の比較では、401人ほど推計値を下回っている。



【出典】第1号被保険者:事業状況報告 第2号被保険者:住民基本台帳

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

3) 要介護認定の状況 (1) 要介護認定者数の推移と構成の傾向

■ 要介護等認定者数の推移と構成の傾向(令和2年度比較)

- 令和2年度(実績)と令和3年度(実績)を比較すると認定者数は全体で約2.8%増の17,620人
- 介護度別に認定者数を比較すると要支援1が約12.5%の増となっており、他の介護度と比較すると増加幅が大きくなっている。
- 構成比についても、令和3年度は要支援1の割合が大きくなっている。

⇒認定者数が増加しており、なかでも要支援1の割合が高い傾向の一因として、第1号被保険者数が増加したことに加え、

団塊世代(昭和22年から昭和24年生まれ)が72歳から74歳を迎え、加齢による申請が増えている傾向があると考えられる。

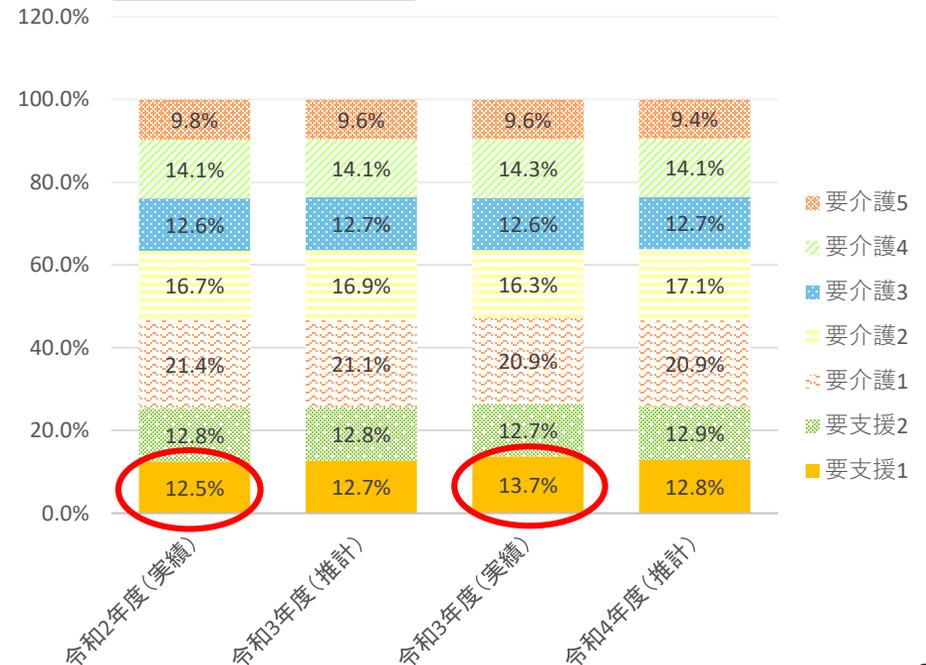
介護度別認定者数

		R2(実績)	R3(推計)	R3(実績)	R4(推計)
人数 (人)	合計	17,140	17,465	17,620	17,890
	要支援1	2,141	2,221	2,410	2,295
	要支援2	2,196	2,237	2,241	2,314
	要介護1	3,671	3,691	3,683	3,731
	要介護2	2,863	2,956	2,867	3,064
	要介護3	2,168	2,226	2,219	2,277
	要介護4	2,423	2,458	2,511	2,523
	要介護5	1,678	1,676	1,689	1,686
認定者のうち第1号被保険者数		16,834	17,162	17,306	17,587
第1号被保険者数		97,922	99,085	98,684	99,710

※【出典】認定者データ(前橋市介護保険課調べ)

※実績:9月末時点 推計:月1日時点

介護度別構成比



(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

3) 要介護認定の状況 (2) 認定者数等の推計値と実績値の比較

■ 要介護等認定者数の令和3年度推計値と実績値の比較

- 全体人数は、対推計比で100.9%であった。
- 要介護2は、推計値を下回っているが、要支援1及び要介護4は、推計値を上回る結果となった。
- 認定率は、推計値より0.2ポイント増となった。

⇒認定率の0.2ポイント増のうち0.1ポイントは推計値より第1号被保険者数が伸びなかったことが一因として考えられるが、認定者数で比較すると、155人の差であり、ほぼ推計値どおりの推移である。

		R3(推計)	R3(実績)	R3(対推計比)
人数 (人)	合計	17,465	17,620	100.9%
	要支援1	2,221	2,410	108.5%
	要支援2	2,237	2,241	100.2%
	要介護1	3,691	3,683	99.8%
	要介護2	2,956	2,867	97.0%
	要介護3	2,226	2,219	99.7%
	要介護4	2,458	2,511	102.2%
	要介護5	1,676	1,689	100.8%
構成比 (%)	合計	100%	100%	—
	要支援1	12.7%	13.7%	—
	要支援2	12.8%	12.7%	—
	要介護1	21.1%	20.9%	—
	要介護2	16.9%	16.3%	—
	要介護3	12.7%	12.6%	—
	要介護4	14.1%	14.3%	—
	要介護5	9.6%	9.6%	—
認定者のうち第1号被保険者数		17,162	17,306	100.8%
第1号被保険者数		99,085	98,684	99.6%
認定率		17.3%	17.5%	—

※実績:9月末時点 推計:10月1日時点
 ※「認定率」は、第1号被保険者に占める
 第1号被保険者の認定者数の割合

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

3) 介護保険サービスの利用状況 (1) サービス利用者数／介護保険給付費

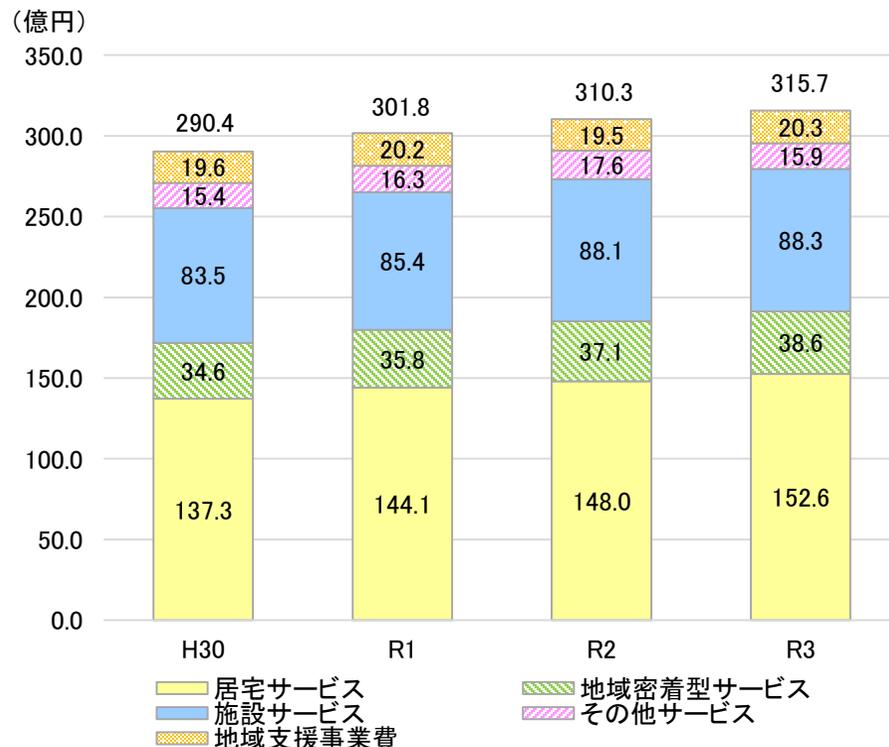
■ 介護保険サービス利用者数の推移(実績値)

- 令和2年度から令和3年度にかけて利用者数は増加した。内訳としては、施設サービスの増加率は小さかった一方、居宅サービスの増加率は大きかった。本市の地域比較による特性で、居宅サービスの利用が群馬県・全国平均よりも多い等の要因が考えられる。
- 認定者は微増しているが、認定者に占める介護保険サービス利用者の割合は、91%を割って、サービス利用率が若干低下した。



■ 介護保険給付費の推移(実績値)

- 介護給付費全体の総額は、令和2年度から令和3年度にかけて約5億円増加し、利用者数の増加率低下やその他サービス費(高額介護サービス費等)が減少したため、従来の約10億円の増加ペースからは鈍化した。
- 施設サービス費は微増だが、居宅サービス費が利用者数の増加に伴い大きく増加し、地域密着型サービス費が続いて増加した。



※「居宅サービス」、「施設サービス」、「地域密着型サービス」の種類については、第8期まえばしスマイルプランの129～131ページを参照

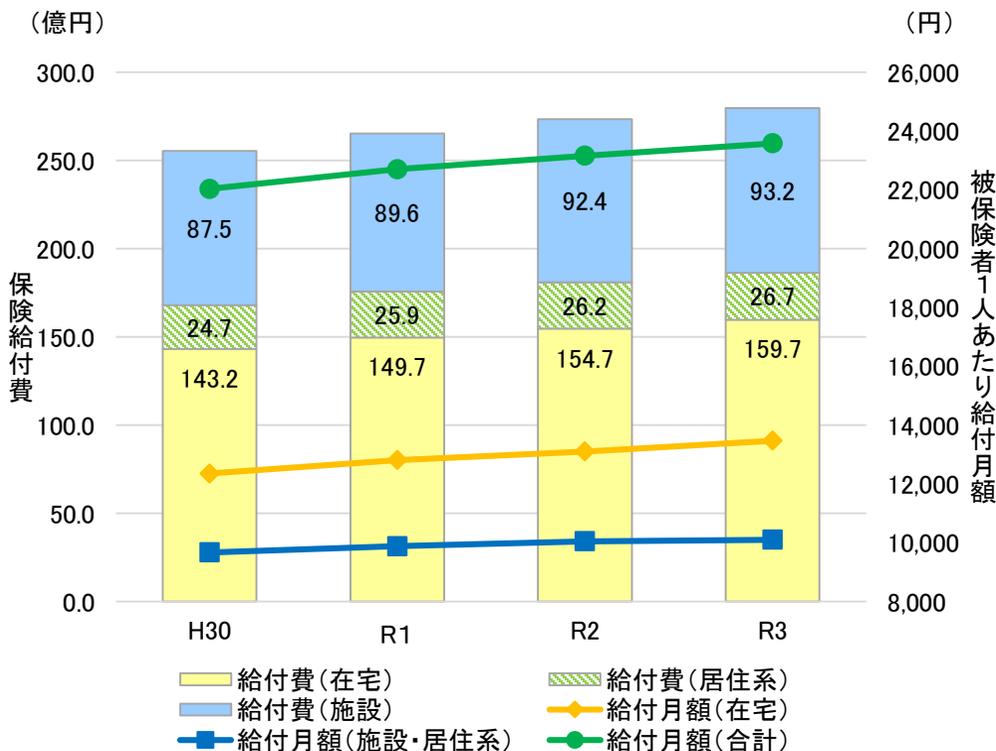
(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

3) 介護保険サービスの利用状況 (2) 被保険者1人あたり給付月額

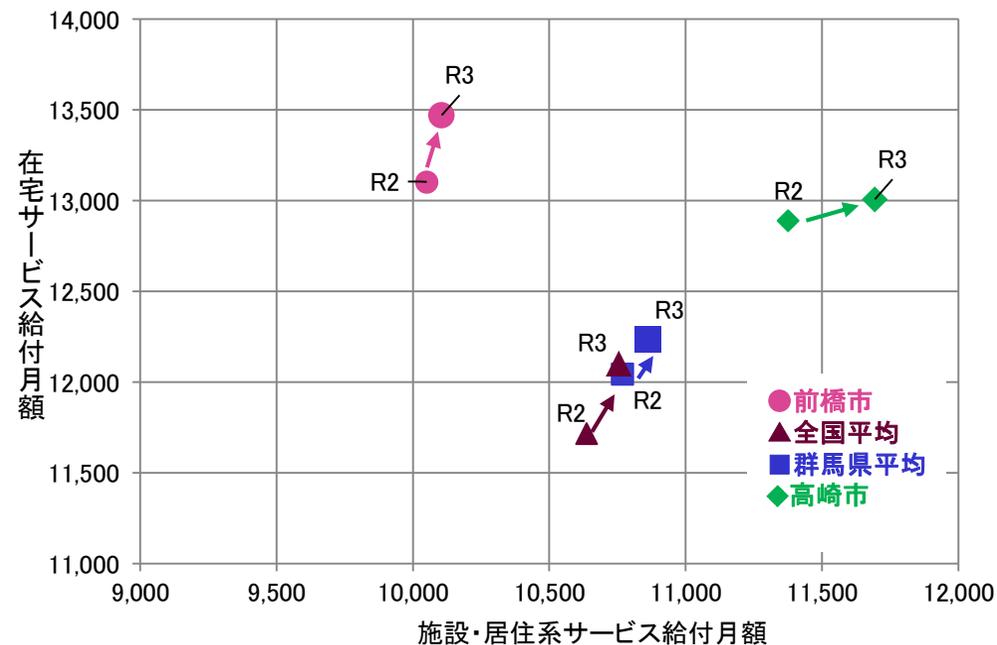
■ 第1号被保険者1人あたり給付月額の推移(実績値)

- 令和3年度の第1号被保険者1人あたり給付月額は23,577円で、その内訳は、在宅サービスが13,471円、施設・居住系サービスが10,106円となっている。
- 令和2年度と比較すると、令和3年度の第1号被保険者1人あたり給付月額は423円増加して、毎年微増傾向にある。



■ 地域比較(第1号被保険者1人あたり給付月額)

- 本市の在宅サービスの給付月額は全国・群馬県平均よりも高く、施設・居住系サービスの給付月額は低い。総額で見ると、群馬県平均を少し上回り、全国平均をやや上回っている。
- 令和2年度と比較すると、被保険者1人あたり給付月額の増加額は全国平均よりも高く、特に在宅サービスの給付月額が伸びている。



※「在宅サービス」、「施設サービス」、「居住系サービス」の種類については、第8期まえばしスマイルプランの17ページを参照

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】

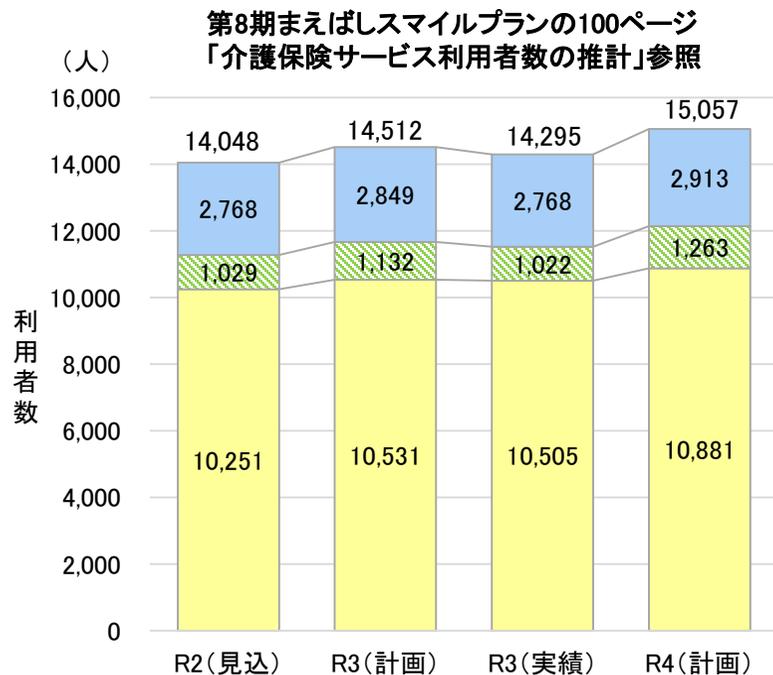
(1) 利用者数・介護給付費全体の推移

■ 介護保険サービス利用者数の推移(計画値と実績値)

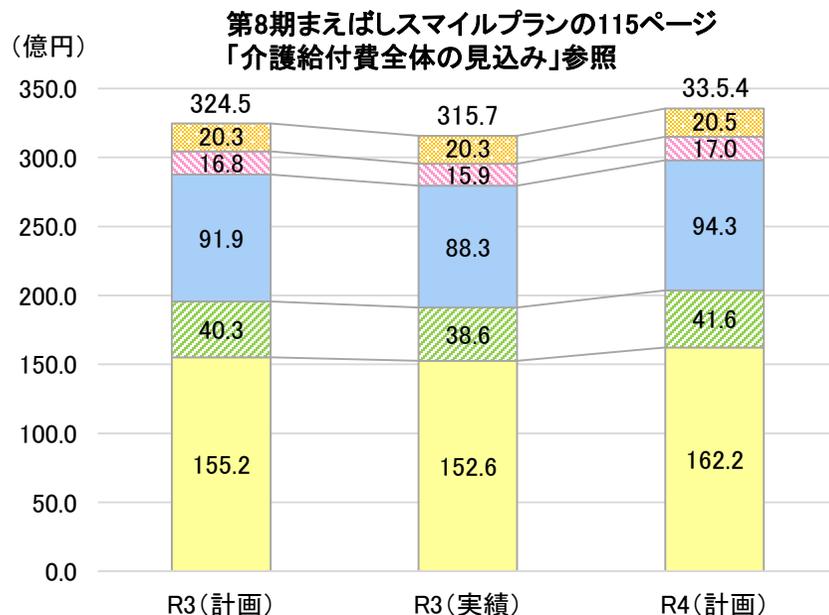
- 令和3年度の利用者数全体は、対計画値98.5%とほぼ計画値どおりとなった。
- 居住系サービスは対計画比90.3%と大きく下回ったが、施設サービスが対計画比97.2%、在宅サービスは対計画比99.8%とほぼ計画値どおりであった。

■ 介護給付費全体の推移(計画値と実績値)

- 令和3年度の介護給付費全体の総額も、利用者数と同様に若干下回ったが、対計画比97.3%とほぼ計画値どおりとなった。
- 居宅サービスは対計画比98.3%で計画値どおりだが、地域密着型サービスと施設サービスは対計画比96%程度と若干下回った。
- 地域支援事業費(総合事業等)は計画値どおりだった。



■ 在宅サービス ■ 居住系サービス ■ 施設サービス



■ 居宅サービス ■ 地域密着型サービス ■ 施設サービス
■ その他のサービス ■ 地域支援事業費

※「在宅サービス」、「施設サービス」、「居住系サービス」の種類については、第8期まえばしスマイルプランの17ページを参照

※「居宅サービス」、「施設サービス」、「地域密着型サービス」の種類については、第8期まえばしスマイルプランの129～131ページを参照

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (2) 考えられる要因

■ 計画値と実績値の詳細比較(利用者数・介護給付費)

- 資料1-2「第8期計画期間における計画値と実績値の比較」を参照

■ 要因分析

- 令和3年度において、計画値と実績値で±10%以上の乖離があったサービスに対して要因を分析。
- 計画値と実績値が乖離しているサービスについて、その要因を分析したところ、以下の理由が考えられる。

① 施設(基盤)整備

② 訪問系サービス利用の増加

③ 通所介護の利用変化

④ 新型コロナウイルス感染症の影響

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (3) 要因①

① 施設(基盤)整備

■ 施設サービス

- 介護医療院（短期入所療養介護(介護医療院)を含む）

⇒ 令和元年10月に開設した1施設(定員26人)の満床利用を見込んで計画していたが、利用者数が計画見込みより少なかったため、利用者数の実績値は、令和2年度実績値から微増で、対計画比89.4%と下回った。

⇒ 給付費は対計画比81.8%と大幅に下回ったが、利用者の対計画比減に加えて、要介護者の比率が変わったため、受給者1人あたり給付費も微増にとどまったため、大幅に計画値を下回った。

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R3/R2	増加数	-1	-1	3	-16	18	3
	増加率	0%	75%	143%	80%	107%	101%
R3	利用者数	0	3	10	66	275	354
	構成比	0.0%	0.8%	2.8%	18.6%	77.7%	100.0%
R2	利用者数	1	4	7	82	257	351
	構成比	0.3%	1.1%	2.0%	23.4%	73.2%	100.0%

←減少数が最大

R3	受給者1人あたり給付費	実績値	378,288	計画値	413,343	92%
R2	受給者1人あたり給付費	実績値	377,823	計画値	340,717	111%

※令和3・2年度実績(介護保険事業状況報告月報より)



令和4年度以降は、計画値どおり利用者数の増加が見込まれる一方、給付費については、受給者1人あたり給付費の増加率によるため、計画値から下回る可能性がある。

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (3) 要因①の続き

① 施設(基盤)整備

■ 居住系サービス

● 特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム)

⇒ 計画として見込んでいた転換(定員130人分)が令和4年4月1日になり、利用者数の実績値は、令和2年度実績値から微減の結果、対計画比88.2%と大幅に計画値を下回った。給付費も同様に対計画比88.1%と下回った。

⇒ 要介護度別で見ると、要介護1・2の利用者は増加した一方、要支援者が在宅サービスへ、要介護者4・5の利用者が介護老人福祉施設・介護老人保健施設の施設サービスや別の居住系サービスへの移行などの理由により、計画値を下回っているのではないかと考えられる。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R3/R2	増加数	-51	-27	94	104	-8	-78	-96	-62
	増加率	83%	92%	106%	108%	99%	95%	88%	99%
R3	利用者数	255	327	1,648	1,371	1,176	1,429	682	6,888
	構成比	3.7%	4.7%	23.9%	19.9%	17.1%	20.7%	9.9%	100.0%
R2	利用者数	306	354	1,554	1,267	1,184	1,507	778	6,950
	構成比	4.4%	5.1%	22.4%	18.2%	17.0%	21.7%	11.2%	100.0%

←減少数が多い順
←減少率が大きい順

※令和3・2年度実績(介護保険事業状況報告月報より)



要介護1～4の利用者が多いが、市全体で在宅サービスの需要も多く、介護度が重度の方は施設サービスの需要もあるため、居住系サービスへの転換は計画ほど進まず横ばいであった。居住系サービスの提供によって、一定の要介護者には必要なサービスを提供できているため、計画どおり居住系サービスの利用を進める。

※資料2「(1) 第8期まえばしスマイルプランの取組状況について ②目標への取組状況について」の23～25ページを参照

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (4) 要因②

② 訪問系サービス利用の増加

■ 訪問系サービス(在宅)

● 訪問入浴介護

- ⇒ 要介護5の利用者が半数以上を占める重度者向けの在宅サービス。市内の事業所数は5事業所と少なく、利用者数も全体から見れば多くない。
- ⇒ 令和3年度は、要介護3~4の利用者が主に増加し前年比110%で、対計画比107.0%となり、横ばいと設定していた計画値を上回った。
- ⇒ 給付費も、要介護3~4の利用者増で、対計画比116.6%となり、計画値を上回った。

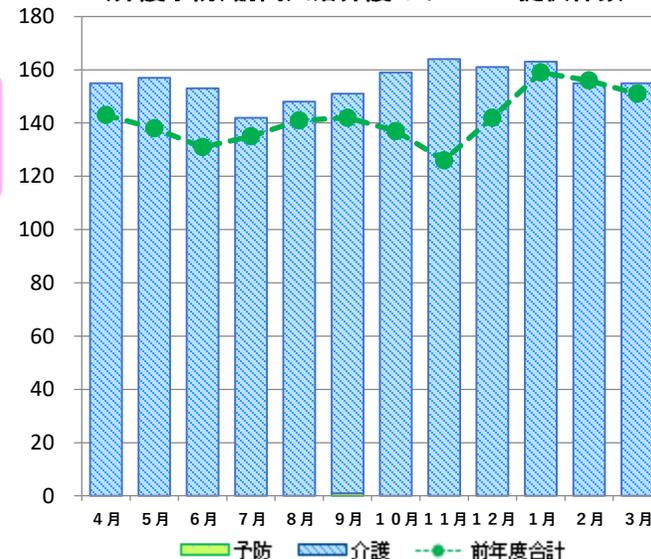
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R3/R2	増加数	0	-1	19	-10	33	109	12	162
	増加率	0%	0%	186%	94%	119%	128%	101%	110%
R3	利用者数	0	0	41	153	208	502	901	1,805
	構成比	0.0%	0.0%	2.3%	8.5%	11.5%	27.8%	49.9%	100.0%
R2	利用者数	0	1	22	163	175	393	889	1,643
	構成比	0.0%	0.1%	1.3%	9.9%	10.7%	23.9%	54.1%	100.0%

※令和3・2年度実績(介護保険事業状況報告月報より)



- ・市内の事業者数は5つしかないが、各事業所の延べ利用者人数が増加しており、訪問入浴介護の提供がR2年度より多く実施されたと考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、訪問系サービス全体の需要が高くなったことも理由として考えられる。

(介護予防)訪問入浴介護のサービス提供件数



※国保連合会の審査データを元に集計
 ※横軸は国保連合会が審査した月のため、サービス提供月は1か月前となる。

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (4) 要因②の続き

② 訪問系サービス利用の増加

■ 訪問系サービス(在宅)

● 訪問リハビリテーション

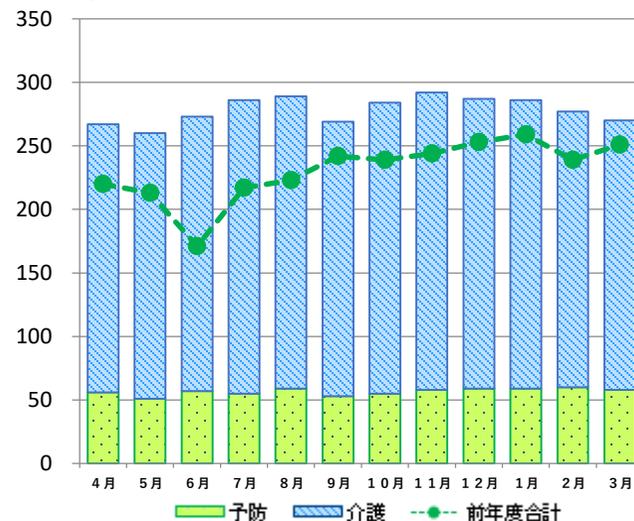
- ⇒ 市内の事業所は、令和2年度に1事業所増えており、令和3年度についても2事業所増えている。(医療みなし指定を含む)
- ⇒ 令和3年度は、要支援・要介護の両利用者とも増加して前年比121%になり、対計画比では119.0%となり、計画値を大幅に上回った。
- ⇒ 給付費も、全体的な利用者増の影響で、対計画比119.9%となり、同様に計画値を上回った。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R3/R2	増加数	46	126	80	65	24	148	76	565
	増加率	126%	139%	119%	109%	105%	138%	130%	121%
R3	利用者数	221	446	512	787	465	535	328	3,294
	構成比	6.7%	13.5%	15.5%	23.9%	14.1%	16.2%	10.0%	100.0%
R2	利用者数	175	320	432	722	441	387	252	2,729
	構成比	6.4%	11.7%	15.8%	26.5%	16.2%	14.2%	9.2%	100.0%

※令和3・2年度実績(介護保険事業状況報告月報より)

←増加数が多い順
←増加率が大きい順

(介護予防)訪問リハビリテーションのサービス提供件数



- ・近年増加した新規事業所が、利用者増の要因になっている。
- ・医療みなし指定の事業所において、延べ利用者人数が増加しており、訪問リハビリ提供を以前に増して実施している。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、訪問系サービス全体の需要が高くなったことも理由として考えられる。

※国保連合会の審査データを元に集計
※横軸は国保連合会が審査した月のため、サービス提供月は1か月前となる。

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (5) 要因③

③ 通所介護の利用変化

■ 通所系サービス(在宅)

● 認知症対応型通所介護

⇒ サービス事業所数に変動がなく、利用者数は微増で、対計画比102.3%と上回った。

⇒ 要介護度別で見ると、要介護1・2の利用者が主に減少した一方、要支援者の利用が増加、要介護者4・5の利用者の増加が著しい。その結果、受給者1人1月あたり利用回数が平均1回増加し、受給者1人あたり給付費が108%増になったため、利用者数に比べて、総給付費が110.5%と計画値を上回っていると考えられる。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R3/R2	増加数	12	28	-22	-52	-6	55	9	24
	増加率	700%	204%	96%	82%	97%	145%	110%	102%
R3	利用者数	14	55	480	231	181	178	101	1,240
	構成比	1.1%	4.4%	38.7%	18.6%	14.6%	14.4%	8.1%	100.0%
R2	利用者数	2	27	502	283	187	123	92	1,216
	構成比	0.2%	2.2%	41.3%	23.3%	15.4%	10.1%	7.6%	100.0%

【要介護】
←要介護4・5 増加率が大きい順
要介護2 減少率が最大

R3	受給者1人あたり給付費	実績値	119,747	計画値	110,850	108%
R2	受給者1人あたり給付費	実績値	112,128	計画値	108,404	103%

R3	受給者1人1月あたり利用回数	実績値	11.8	計画値	10.8	109%
R2	受給者1人1月あたり利用回数	実績値	11.0	計画値	11.0	100%

利用日数が多く、報酬単価が高い要介護4・5の利用者が増加したため、総給付費が110.5%と計画値を上回った。

※令和3・2年度実績(介護保険事業状況報告月報より)

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (6) 要因④

④ 新型コロナウイルス感染症の影響

■ 短期入所サービス

● 短期入所生活介護(ショートステイ)

⇒ サービス事業所数に変動はないが、施設入居者との接触機会が増えることもあり、他のサービスよりも利用者の減少幅が大きく、実績値が計画値を下回った。

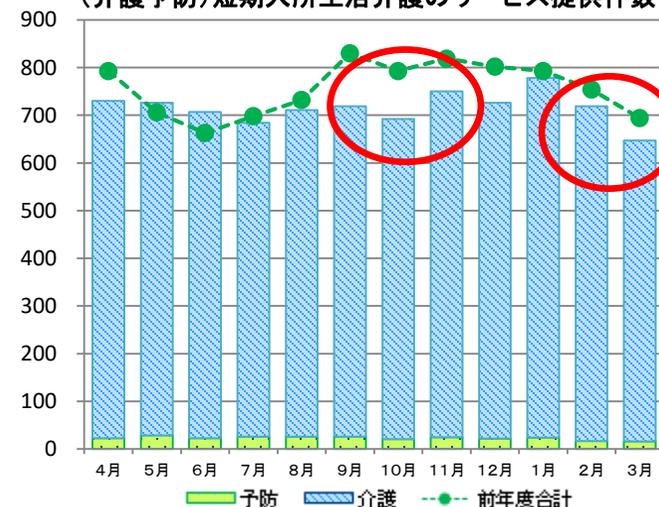
⇒ 要介護度別では要支援1>要支援2>要介護1の順に減少しており、より軽度な方が利用を控えていると考えられる。

⇒ 国保連合会の審査データから、新型コロナウイルス感染者数が多い月ほど、サービス提供件数が減少し、利用控えとなった。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R3/R2	増加数	-22	-50	-246	-67	-2	-119	-25	-531
	増加率	67%	81%	88%	97%	100%	92%	97%	94%
R3	利用者数	45	220	1,730	2,088	1,850	1,444	823	8,200
	構成比	0.5%	2.7%	21.1%	25.5%	22.6%	17.6%	10.0%	100.0%
R2	利用者数	67	270	1,976	2,155	1,852	1,563	848	8,731
	構成比	0.8%	3.1%	22.6%	24.7%	21.2%	17.9%	9.7%	100.0%

※令和3・2年度実績(介護保険事業状況報告月報より)

(介護予防)短期入所生活介護のサービス提供件数



←減少数が多い順
←減少率が大きい順

※国保連合会の審査データを元に集計
※横軸は国保連合会が審査した月のため、サービス提供月は1か月前となる。

(1) 第8期まえばしスマイルプランの取り組み状況について

① 介護保険事業の状況

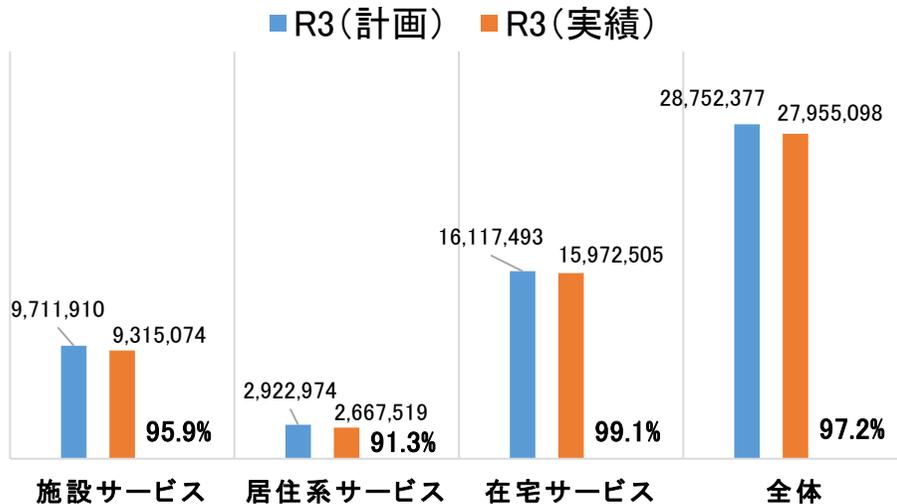
4) 計画値と実績値の比較【令和3年度】 (6) 要因④の続き

④ 新型コロナウイルス感染症の影響

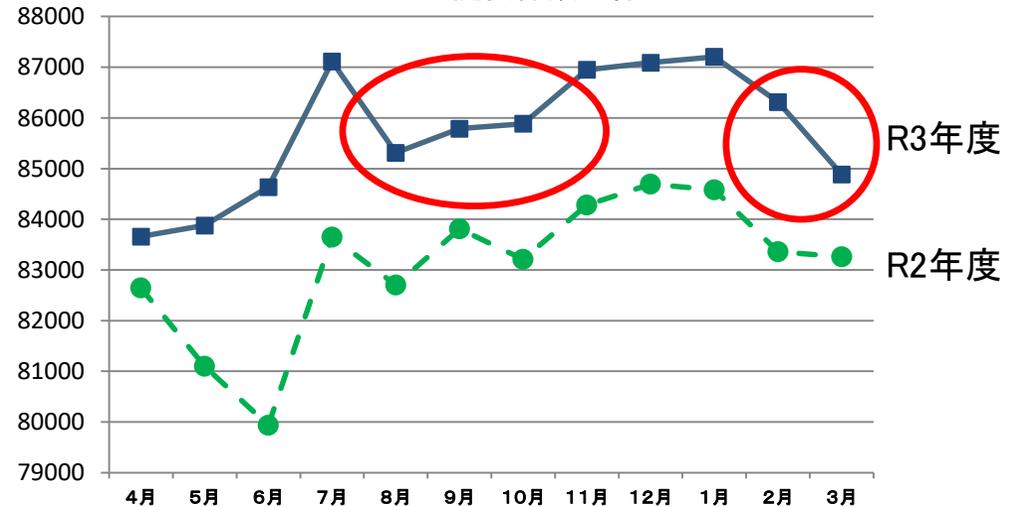
■ 全体のサービス提供件数

- 令和3年度のサービス提供件数は、令和2年度と比較して各月とも増加したが、計画値を下回った。令和3年7月～9月、令和4年2月～3月のサービス提供件数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も見られて若干減少傾向となった。
- 施設サービスは感染症の影響は少なかったと考えられる。在宅サービスは、訪問系サービスの利用が増加した一方、通所系サービスや短期入所サービスの利用は減少したが、在宅サービス全体は微減のため影響は少なかったのではないかと考えられる。居住系サービスは、特定施設入居者生活介護の対計画比増を見込んだが計画値を下回った影響が大きく、各サービスにおける新型コロナウイルス感染症の影響度合いの評価は難しい。

R3年度計画値と実績値の比較(サービス区分ごとの給付費)



サービス提供件数全体



※国保連合会の審査データを元に集計

※横軸は国保連合会が審査した月のため、サービス提供月は1か月前となる。 15